

ショートコメント vol.65 (2017年3月15日)

テーマ：インバウンドによる消費と為替相場との連動性
～円安で増える「モノ」への需要～

●インバウンドによる消費に回復の動き

ここへきて、訪日外国人（インバウンド）による消費に回復の動きがみられる。

百貨店の免税売上は昨年の上旬から上向きとなり、直近の1月は全国、関西ともに過去最高を記録した（図表1）。これには春節に伴う押し上げも含まれるため、その分は差し引く必要があるものの、昨年の減速傾向は脱した感がある。

景気ウォッチャー調査の2月調査における、百貨店関連のコメント（現状判断）でも、インバウンドに関しては「2月に入っても、1月の好調が持続している」といったニュアンスのコメントがみられる（図表2）。

●円安によるインバウンド消費への好影響

この背景としては、主に昨年度後半から円安が進んだ影響が挙げられよう。

米国の大統領選などをきっかけに、円ドルレートはそれまでの1ドル100円前半から、年末には一気に110円台後半にまで変化した。これらによるインバウンドへの影響については、訪日数の押し上げもさることながら、主に1人当たりの消費額の増加につながった可能性が高い。

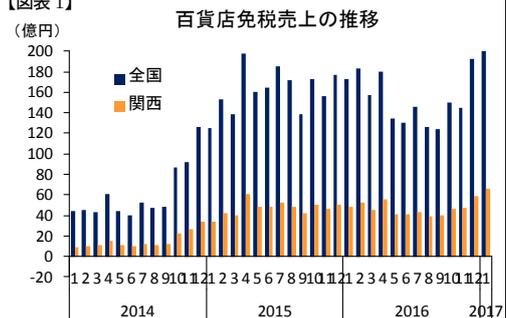
昨年度前半を中心とした円高局面でも、訪日数自体は前年を上回る動きが続き、特に目立ったのは1人当たりの消費額の減少であった。この点をもみても、為替の変動による影響としては、より消費面に出やすいと考えられよう。

●「一般物品」の売上と為替との連動性

為替がインバウンド消費に与える影響については、図表3によく表れている。

百貨店の免税売上については、宝飾品やブランド品などの「一般物品」と、化粧品などの「消耗品」に分けられるが、「一般物品」の動き（全国）と円ドルレートの推移をみると、両者の連動性はかなり高いことが分かる。インバウンドによる消費については、モノからコト（体験やサービ

【図表1】



(出所)百貨店協会、日銀大阪支店

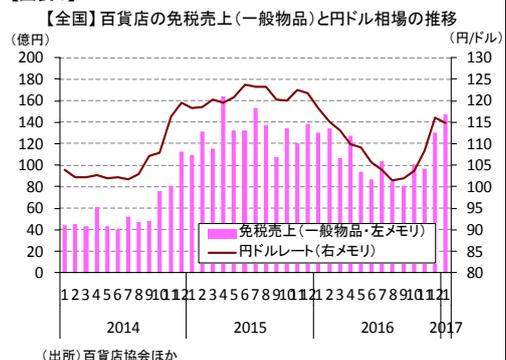
【図表2】

景気ウォッチャー調査(2月)のインバウンド消費に関するコメント(関西)

百貨店 (サービス担当)	・今月はバレンタインフェアや、中国人観光客の春節に伴う動きが好調に推移し、 先月の傾向と同じく、前年実績と売上目標がクリアできそう である。
百貨店 (売場主任)	・今月はバレンタインフェアなどの集客策が功を奏し、目標を上回る見込みである。また、 インバウンドの売上も回復傾向 にある。
百貨店 (企画担当)	・株高、円安に転じた昨年11月以降、外国人客の単価上昇と外商顧客の購入が好転し、 現在も好調が続いている 。特に、今月のインバウンド売上については、 中国の春節が1月に前倒しとなったにもかかわらず、前月とほぼ同じ金額を確保できる見通し であり、 上向きの動きが続いている と感じている。
百貨店 (商品担当)	・都市型店舗では、年末から活況のインバウンド売上が、 春節後も好調を維持 している。特に、婦人洋品、化粧品やバレンタイン需要の洋菓子が好調である。

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(2月調査)
※コメント中、関連する箇所のみを抜粋

【図表3】



(出所)百貨店協会ほか

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

ス)へというトレンドの変化が進んでいるものの、為替次第でモノの需要が増えることを意味している。
これらをふまえれば、今後も訪日数が急減するような世界情勢の変化がなく、為替も足元のような円安水準で安定するならば、インバウンド消費は前年を上回る動きが続くといえよう。

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。